

長野市伝統芸能団体

保存団体	フリガナ 団体名	カミコマザワサイテンホゾンカイ 上駒沢祭典保存会		
	伝統芸能の 名称	上駒沢諏訪神社大々御神楽		
	地区・ 行政区	古里地区・上駒沢区		
行事 (祭礼)	名称	春季例大祭	秋季例大祭	勤労感謝祭
	場所	上駒沢諏訪神社	上駒沢諏訪神社	上駒沢諏訪神社
	時期	5月5日	毎年9月第二土・日曜	毎年11月第二日曜
	内容	例大祭の準備(幟立等)、秋季例大祭は氏子委員、区の当役、各種団体長及び新築等で獅子舞披露。神社で奉納		
	いわれ ・特徴	別紙		

上駒沢諏訪神社と祭りについて

(平成16年8月10日、徳永法静氏講演資料)

神楽ばやしについて

上駒沢の神楽ばやしの始まりは、大正3年(1914)今から90年前の頃と言われ、村内の青年、浅川耕平さん、六川新作さん、松倉喜八さん、柄沢泉(和泉)さん、久保田久雄さん、金子利七さん達が、上駒沢にもお神楽が欲しいと相談し、お神楽の先達である徳間在住の金子さんに教えを受けたのが始まりと言われている。(勿論当時は神倉(かぐら)、獅子頭はあったと思われる。)

I. 神楽の由来について

神楽には、巫女神楽(みこかぐら)、湯立神楽(ゆたちかぐら)、獅子神楽(ししかぐら)、出雲神楽(いづもかぐら)等がある。

神楽という神事芸能は、古くは神座(かみくら)を設け宮廷で神を祭る時に奏し神々を勧請し、その神前で鎮魂やお祓(はらい)など神事を行ったのが起源である。したがって、神座(かみくら)が神楽(かぐら)の語源といわれる。

上駒沢の神楽は獅子神楽で、獅子頭を御神体とし、その流れをうけて組まれている「かぐら」と呼ばれる神殿風造りで、笛と太鼓の囃子(はやし)で獅子舞をする郷土芸能の一つである。むかし聖徳太子の時代に朝鮮から伝来され、獅子舞は初めは仏事にのみ行われた事を見ると、この舞は天竺(てんじゅく)今の印度(インド)に近い所の風俗であったと言われている。

昔から産土神(うぶすながみ)即ち生まれた土地を守る氏神の村祭りに、若い衆により奉納される習慣となっている。

参考までに、巫女神楽、湯立神楽、出雲神楽について述べて見ると、

- ・巫女神楽(みこかぐら)

神に仕えて神楽、祈禱を行い、又は神意をうかがって神託を神託を告げる者、未婚の少女。

- ・湯立神楽(ゆたちかぐら)

湯立を行事を中心とする神楽で、県内の霜月神社等。

- ・出雲神楽(いづもかぐら)

出雲の佐太神社の様式が広まったもので、中国、九州地方を中心に全国に分布された

II. 神 倉 (御輿) (かぐら)

反りを与えた格子造りの屋根棟中央に、角燈籠、その上部に御幣をつけ、角燈籠には「一萬度」と書かれた燈明がともされる。

(一萬度とは、田植えから始まり、米作りの豊作に必要な積算温度を表し、「かぐら」奉納に豊作を願う住民の祈りがこめられている。)

また、格灯籠の両脇には「大々神楽」「今月今夜」と書かれている。屋根の下には細い透かし格子の扉をはめこんだ神殿があり、御神体の獅子頭を収納できるようになっている。神殿の周囲には欄干が廻らされ、前方には階段が付けられている。

このかぐら(御輿)は、長持風に作られた長方形の箱の上に乗せられ、長持には「よたん」と云う木綿の紺地に波しぶきが染めぬかれた幕が張られ、大きな担ぎ棒を通して担ぐように作られている。神殿の後方には横胴(おうどう太太鼓)小胴(こどう小太鼓)が取り付けられる。

祭りの当日は担ぎ手が担ぎ棒を担ぎ、横にぐらつかないよう昔は長方形の箱の中に薪を均等に入れてバランスを良くしていた。現在ではリヤカーに乗せ、太鼓を叩きながらお囃子や掛け声をかけて村中を練り歩く。これを「神楽道中」と云う。

III. 獅子頭

当村保有の獅子頭は女獅子で、男獅子に比べると若干小型で、古い獅子頭は、内堀小信さん(文久3年(1863)10月4日生まれ)が22歳の時に寄贈のされた物であり、獅子頭の保管箱に明治18年(1885)と記録されている。従って、今から119年前のものである。

※神楽獅子舞の伝承については、前記Iの「神楽の由来について」を参照。

IV. 獅子舞い囃子

囃子(はやし)は、笛が中心であり笛は篠竹で作られた横笛である。太鼓は横胴と小胴であり、神楽道中囃子は二人で叩き、獅子舞囃子は両方の太鼓を一人で叩く。

上駒沢は女獅子であり、獅子頭には木綿の紺地に唐獅子毛模様染めの幌(ほろ)を縫い付けてあり、獅子頭を被って舞う前獅子(前脚)と、獅子胴衣(ほろ)の尻尾を持つ後獅子(後持ち)が幌の中で舞手の動きに合わせて動作し、獅子舞に律動感をかもし出す様に努めるものである。(二人立一匹獅子とも言われている。)

V. 獅子舞

- ・前半は獅子頭をかぶり、前に垂れた幌を両手で支えながら手を動かし、体を前後しつつ前幌を丸めて手玉を操る素振りを入れ、動きに変化を与えている。…【静】
 - ・中舞いは、御幣と鈴を持って舞い、口伝の祝い唄の囃子にのりながら前後左右の悪魔を振り払いながら、五穀豊作、雨請い、家内安全、無病息災等を祈り、神に感謝し、あたりを静め清めるように舞う。…【清】
- 「五穀とは、人が常食とする五種の穀物、米、麦、粟、豆、黍(きび)又は稗(ひえ)」

松代藩勘定奉行御諭状

「前条の一件其方共も一体常々曲道具等まで
拵こしらえ置き稽古致し其の内には上達の者も
これ有り他村まで指南にも罷越し候者も
これ有る由一通りの神楽獅子舞い等と違い、
一朝一夕の事に出来兼ね候儀、専ら心掛け候わば
自然と百姓の家業懈おこたりに相成り心得違いに
不埒ふらちの事に候、以来右様の儀相止め農業に
出精致すべき者也」

安永九庚子年八月

子ども神楽ばやしについて

2017年9月
南雲弘治

子ども神楽について少しお話させていただきます。

この子ども神楽は、今年で40年を迎えました。

昭和52年の1月だったと記憶しています。

当時、育成会長の小日向弘次さんが、保存会長 故 徳永智さんに申し入れ練習が始まりました。

きっかけは、保存会員の高齢化と新規加入の減少と、子どもたちに地域の文化を味わって欲しいという願いからでした。

この時お世話になった先生方の多くは他界されましたが、ご存命の方は、内堀慶事さん、金子光衛さん、佐藤安治さん、近藤文夫さん、金子堅太郎さん、浅川順一さんなどです。

第1回目の発表会は昭和53年の秋祭り、米倉周治さんが育成会長のときでした。

この年、お神輿も新調しました。

その後、育成会と保存会で協力し、上駒沢の素晴らしい伝統文化を継承してきました。

育成会で伝統芸を身に着け、保存会で活動を続けてきた結果、本年度の保存会員数は約100名という、大変大所帯となりました。

平均年齢も大変若く、とても活気のある活動を行っております。

行事についての補足

春季例大祭・勤労感謝祭（新嘗祭）においては幟の準備・撤収

秋季例大祭は幟・門燈籠組立・神楽組立をはじめ、

氏子委員や氏子三役、区当役、各種団体長、新築、お祝い等で獅子舞（悪魔払い）毎年2日間で約40件ぐらい獅子舞をします。最後に神社にて獅子舞奉納